大学入試改革について知ろう

開倫塾
塾長　林　明夫

林明夫：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

あと少しで新年を迎えますね。今日は、大学入試が大幅に変わるとお聞きしましたので、開倫塾教務本部長の渡辺博先生から、これからの大学入試についてというテーマでお話をお聴きしたいと思います。

渡辺先生、いつ頃に大学入試が変わるといわれていますか。

渡辺先生：はい。2019 年から新テストとして導入され、2020 年から大学希望テストという形で大きく変わっていきます。

林　：2019 年から始まって 2020 年には本格的なテストが導入されるということですね。では、なぜこのようなテストが導入されることになったのか、その背景は何でしょうか。

渡辺：はい。私塾会のプレミアムセミナーで、前文部科学大臣の下村博文先生の基調講演がありました。その中で、これから 10 年後、20 年後の子供たちのためには教育開発が必要である。そして、そのために大きな大学改革をすると述べられました。

林　：詳しくお話しますと、Education　2030 というテーマがあり、2014 年に OECD の事務総長グレアさんと日本の文部科学省の文部科学大臣であった下村博文先生が提携をしました。今後、世の中はどんどん変わっていきます。そこで、現在の子供たちが今から 15 年後の 2030 年の世界で活躍できるようにと大プロジェクトが始まりました。その一環として、日本の場合は大学入試の改革をしなければならないということで始まったとお聞きしています。そのような理解でよいでしょうか。

渡辺：はい。これからの子供たちが主体性をもって、思考力・判断力・表現力を身に着けるための教育をするということのようです。

林　：大切な言葉は、主体性をもってということですね。大学入試は、現在はセンター試験として毎年 1 月の中旬に実施されていますが、これは具体的にどのようになりますか。

渡辺：基本的には、基礎学力を試すテストと大学受験を希望する人のためのテストの 2 つに分かれます。基礎学力テストの場合は到達度テストといい、その学年での学力が身についているかどうかのテストです。そして、その結果は、推薦入試や AO 入試、または就職に使われるそうです。

林　：試験が２つに分かれるのですね。到達度テスト、つまり各学年ごとにどのくらい到達しているかを試すテストと、大学を受験するためのテストに分かれるということですね。

ところで、AO 入試というのはどのようなものですか、説明をお願いします。

渡辺：AO 入試というのは、自己推薦入試ととらえていただくとわかりやすいと思います。

林　：AO 入試のときに、どのくらい学力があるかの証明として到達度テストの結果を出せるわけですね。国立大学においては、今後は 30 %以上を AO 入試で取るという方針が文部科学省から出されています。国立大学は、今までは推薦入試があまりありませんでした。しかし、東京大学を含めて試験の仕組みが変わり、普段の成果が問われる試験になるようです。

また、今までの大学入試センター試験に代わるものとして新しいテストがあるようですね。これについてはどのような変化があるのでしょうか。例えば、英語はどのようになりますか。

渡辺：英語は、今までの 2 技能テストから 4 技能テストになり、スピーキングテストとライティングテストが加わります。現行のセンター試験はすべてがマークシート式のテストでしたが、記述式が導入されることになります。ですから、英語の 4 技能テストに関しては一番大きな変化になるようです。

林　：英語の 4 技能というのは、読む・聞く・話す・書く技能のことです。読む技能と聞く技能については今までのテストで試されていました。渡部先生のご説明によりますと、これに加えて、話す技能と書く技能が試験として加わるということですね。では、配点はどのようになりますか。

渡辺：配点は新テストに代わるときに決まっていくことになると思います。ですが、おそらく 4 技能が等しい配点になるのではないかと思います。

林　：現在上智大学では先行して試験が行われています。これは 400 点満点で、読む・聞く・話す・書くが 100 点ずつです。これと同じようになると考えてよいでしょうか。

渡辺：おそらくそうなると思います。使える英語ということが目的ですので、相手に話して伝えるスピーキングと書いて伝えるライティングができないと、先ほどお話した主体的に活躍する場が広がっていかないと思います。

林　：わかりました。英語に関しては、お話していただいたように大幅に変わっていくということですね。では、社会はどうですか。

渡辺：社会は、歴史総合という科目が作られます。近代・現代の世界史と日本史を中心に、歴史の根拠などをただ単に教えてもらうというのではなく、生徒自らが学んで調べる、つまり主体的に学習していくという形に変わっていくと聞いています。

林　：世界史と日本史について近代・現代史から今日に至るまで、多くの先人たちが苦難や葛藤、矛盾を抱えながら歴史を切り開いてきました。その方々がどのように歴史を切り開いてきたのか、どのような困難に遭遇したのかを学び、歴史的な思考を養うことが歴史総合だとお聞きしています。そして、このようなことを試験として問うのが今後の形になるようです。

また、今までの大学入試センター試験はマークシート式が多かったですが、記述式というのはどのような試験になるのでしょうか。

渡辺：はい。マークシート式の試験もありますが、基本的には論述式の試験が増えていくようです。今までは論述式といっても短い文章の記述でしたが、これからはもっと長く書くような形式に

なると聞いています。

林　：数学については、証明問題などが、論述式で書くような形式になるということですね。そうなると、どんどん難しくなっていきそうですね。

今日は、開倫塾教務本部長の渡辺博先生から、これからの大学入試がどのように変わっていくのかということについてお話をお聴きしました。楽しみでもありますが、新しいチャレンジがいろいろありそうです。それでは最後にお聞きします。大学入試が変わっていくことに対して、学生の皆さんはこれからどのようにすればよいのでしょうか。

渡辺：大学入試改革は、現在の中学 1 年生から始まり、すべてが変わるのは小学 3 年生からです。ですから、これから大学入試が変わるんだということを認識した上で、今から準備をしてそれぞれの勉強をしていくことです。自分から学ぶという姿勢が一番大切ですので、ぜひ身に着けていただきたいと思います。

林　：中央教育審議会で議論されている新しい学力観、つまり学力とは何かということについては、主体的に学ぶ力が学力であると定義されています。今渡辺先生からお話していただいたように、これからは自ら学ぶ・主体的に学ぶ・自覚をもって学ぶということを心掛けていただきたいと思います。渡辺先生、今日はありがとうございました。

渡辺：ありがとうございました。